# 推定値の算定について：

これらのグラフには2015年から2045年にかけての認知症の人とMCIの人の人数の【推計値】を示したもので、実測値ではありません。ここで示される「推定される認知症などの人数」とは、その地域の男女別年齢階級別の推計人数（A）にそれに対応する男女別年齢階級別の有病率（B）を掛け合わせて合計したものです。

推計人数（A）ですが、『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）URL(1)』がもととなっています（福島県の市区町村データはありませんので表示されません）。有病率は研究調査に従ったものが利用されています。詳細は添付ファイル（「病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク構築に関する研究事業」分担研究）に示した通りです。いくつか世界では5歳刻みの男女別有病率が調べられていますが、MCIを含むものは日本の調査結果（朝田ら文献1）しかなく、それを参照しています。認知症に関する年齢階級別有病率は先の報告書にあるように単純なロジット関数の当てはまりがよいものでした。またMCIは、DSM-5という診断基準において両者は、MCIから認知症へと連続した交わりのない排他的な概念のように定義してあるために、これを利用しています。日本の調査結果に対して、グラフの視認上そこそこの当てはまりの良さを示しています。

1) https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp

2) 朝田 隆: 都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応. 厚生労働科学 研究費補助金 (認知症対策総合研究事業) 平成23年度〜平成24年度総合研究報告書, (2013).

# 作成に際して：

本プログラムはreact,NEXT.js,d3.jsを使い、hostingにvercelを利用しています。作っている当人が素人でマニュアルやcourseraで授業を受けながら、無計画につくってしまっています。Next.jsではレンダリング前に仮想DOMを読みに行ったりするようなレンダリング方法などが用意されていたり、そもそもreactでmemo化やuseEffectでの依存変数を限定しながらレンダリング回数を減らしたり、あるいはcsvの逐次読取りからデータベース登録して読み込ませるなどすれば速度はかなり改善できると思います。現時点では安易で稚拙なコードですみません。とはいえ診療もありまとまった時間が取れず、反面こういった統計は世の中にとっては必要だろうと考え、とりあえずのものでupしています。遅い、使いづらい、についてはお許しください。

いま人数と有病率（65歳以上と85歳以上）の三つの指標しか出していません。また認知症とMCIとをまとめた数値しか出していません。

その他の指標の提示についてご要望があれば、即時対応はできませんが、前向きに対処しようかと思います。あとあとを考え、CI/CD的なものを夢想し、しかしテスト抜きでバージョン管理システムとリンクさせています。コーディングやファイル管理のマネージメント方法についてお力添えいただける方がいればありがたいです。順次時間があるときに改変していきたいと思います。

# 物語：

タイトル：「ふつうの認知症」の世間とのギャップ

当院にてアルツハイマー型認知症と診断した山口としこさん（仮名、85歳）がこういうのです。

「先生、わたしってふつうですか？」

僕は、

「そうですね、ふつうです。」

といいました。

すると、山口さんは

「でも、認知症でしょ」

僕は

「そうですね」

診察室の空気は心なしか悪くなっていきます。

たまたま国の事業で、杏林大学の神崎先生を班長に数年前に認知症の統計を計算したことがあります。ぼくの頭の中に残っていた印象は、85歳以上の有病率は低く見積もってもほぼ地域差はなく、7割、というものです。85歳にもなれば、認知症である方がふつうではないか、というものです。三鷹市を見てください。（リンク）

ここでの山口さんとの対話から、ぼくは世間では85歳すぎても、90歳過ぎても、まさか自分は認知症にはならないだろうという期待があるのではないか、とおもったのです。認知症ではないほうがふつうなのではないか、というものです。たしかに「ふつう」とは、人数の多いほう事象をさすのではなくて、その人の「ふつう」の認識の在り方次第ですね。逆にその人の「ふつう」の認識の在り方を知ることで、たとえばその人やその人を取り巻く人々の、生活上必要とする「ふつう」の基準を知ることができます。

認知症においてはとりわけ、この世間の「ふつう」と「現実の多いほうの事象」とのギャップが大きいのではないか、と思うのです。

現実の普通は、85歳にもなれば、それ以上の人々の有病率は低く見積もっても（この理由は別途かきますが）7割程度です。

世間ではこの数値の高さは信じてもらえないでしょうね。

来る我々の未来におこることで、いまから推定できることは、まさに明日は我が身を感じれることでもあるし、これからの生き方を決めていくことにもつながると信じ、このたび日本の地域ごとの（あくまで推計ですが）認知症並びにMCIの推定数についてアプリとして掲載しました。ぜひともご活用ください。